

# 小学校歴史授業における「話し合い・討論」の展開と評価観点

吉川 幸男・相山 啓二\*<sup>1</sup>

The Development and Evaluative Viewpoints of "Discussion" as Learning Activity  
in the Teaching of History in Elementary School

YOSHIKAWA Yukio, SUGIYAMA Keiji\*<sup>1</sup>

(Received January 6, 2016)

キーワード：歴史学習、話し合い・討論、小学校歴史授業

## はじめに

「知識の獲得」を中心としてきた日本の学校歴史教育において、「話し合い・討論」という形態の学習は、従来とはかなり異なる教育観・指導観に立つものであることは今更述べるまでもないように思われる。しかし近年、「思考力・判断力・表現力」「言語活動の充実」などの脈絡で、教育行政的にもこの学習形態が推奨される状況になると、この形態が依って立つ歴史教育観・歴史学習指導観を、今日的脈絡の中でより明確にすることが求められる。というも、近年の動きを受けて、「知識の獲得」を中心とする旧来の学習の中に、付加的に「話し合い・討論」が挿入されたり、なかば儀式的に「話し合い・討論」が行われるような、いわば「話し合い・討論」の形態だけを接木的に取り入れるような実践事例が増えかねないからである。

このことはとりわけ、小学校の歴史学習には重大な意味をもっている。歴史の学習とは自己の外側に客観的に存在する過去の事実・事象を知識として獲得するものだとする学習観は、小学校において形作られ、中・高でより強固なものになってゆく。「話し合い・討論」の学習をどう取り入れるかという問題は、歴史の学習とは何をするかという学習者自身の学習観を規定する。その最初の段階が小学校歴史学習といえる。

本稿の課題は、歴史授業における「話し合い・討論」が到達点としてどこに向かってゆくのか、そしてそれに応じて「教師の指導と評価」はどのような観点から行われるようになるのか、この点を小学校の歴史授業の場合について具体化することである。この課題の含意するところとしては、旧来の歴史授業が「知識の獲得」に向かってゆくのに対し、「話し合い・討論」の歴史学習は、(もちろん結果的に「知識の獲得」が伴うとしてもそれが主たる目的でないとするれば、)何をもって評価することになるのか、その場合、教師の指導とは何をするか、という点である。

この課題への対応のため、本稿では小学校第6学年の歴史学習に対して、部分的・接木的ではなく、単元まるごとを「話し合い・討論」を中心に構成することを試み、授業を実施した上でその進展過程を追跡することを通して、その向かう方向、並びに教師の指導位置を浮かび上がらせてみよう。小学校の歴史学習が第6学年だけではなく、第3・4学年から郷土史的内容で行われていることは周知のところであるが、上述のような意味での「知識の獲得」に向けた学習指導との対峙がより先鋭化するのが第6学年であることから、試みる対象として第6学年の単元を設定し、そこでの学習の進展を追跡することとする。

## 1. 歴史授業における「話し合い・討論」に関する議論の焦点

「話し合い・討論」を中心に小学校歴史学習の単元を構成するには、例えば元来、歴史学習において「話し合い・討論」はどのように議論されてきたか、特に小学校段階のそれは何が問題になってきたか、近年における議論の焦点は何か、などの動向を踏まえ、その中で本稿ではどのような試みを実施するのかを定める

\*1 教育学研究科社会科教育専修 (山陽小野田市立高泊小学校)

必要がある。ただし本稿は「仮説・検証」を目的とするわけではないので、これまで明らかになった「話し合い・討論」の原理や構成法を取り出すわけではない。ここで必要なのは「話し合い・討論」の取り上げられ方や議論の動向である。なお「話し合い」と「討論」は、厳密には異なる概念と思われるが、特に小学校の実践では両者の境界を見出すことは、よほど作為的なルール設定をしない限り難しい。また、本稿の目的からしても、両者を厳密に区分して考察することに重要な意味を見出し難い。こうした実情に鑑み、本稿では子どもたちが一定のテーマに即し意見交換を行う場面を一括して「話し合い・討論」と規定して進める。

「話し合い・討論」という学習形態は、社会科にとってはその成立経緯から本源的かつごく日常的なものであって、元来は取り立てて主張されるような形態ではなかったと思われる。ところが社会科の学習が当初のあり方からかけ離れて久しくなると、さしあたり学習形態として「話し合い・討論」を取り入れ、社会科本来の学習に近付けようとする試みが、先進的な実践者の間で次第に行われるようになる。これが主に1980年代の頃からであり、1990年代になるといわゆる「新学力観」の提唱の下で活動主義的な学習が推奨され、より広範な普及への下支えを得ていく。

歴史学習に関してもこの時期、討論形態でのさまざまな実践的試みが発表されている。この中にあって歴史教育者協議会は、歴史の討論授業の事例を集成した実践書を2002年に刊行しており、「話し合い・討論」による歴史授業のこの時期の到達水準を知る上で参考になる。<sup>1)</sup> この実践書は小・中・高それぞれの段階における歴史の討論授業の事例を掲載しており、小学校の事例も2事例あげられ、一つは中世で草戸千軒遺跡から当時の食事を議論するもの、もう一つは朝鮮通信使の屏風絵から疑問点を議論するものになっている。いずれも史料から「事実」を推論してゆく段階のもので、小学校の歴史授業での討論とは「事実」の確定をめぐる行われるという考え方が打ち出される結果になっているが、これはたまたまこの2事例がいずれもそうであったという偶然であろうか。本書の冒頭部分では小・中・高のそれぞれについて「手立てと工夫」が述べられているが、高校を担当した加藤公明が「生徒の持っている歴史についての常識や通念に事実をもってぬきさしならない矛盾を発見させる」ことを討論設定の不可欠な条件とし<sup>2)</sup>、「歴史認識の主体性を回復させる」ことに歴史の討論授業の意義を置くのに対し、小学校を担当した木村誠は、知識や経験が乏しく論理的思考能力が未発達な小学生に討論授業は難しいとし、必要な準備手立てとして日常を細かく観察する習慣を付ける、日頃から史料に親しみを持たせておく、追究課題となる「はてな」を常時意識させる、等をあげている。<sup>3)</sup>

上記のような議論動向からわかることは、この当時、「話し合い・討論」を歴史授業に積極的に取り入れた実践者に意識されていたのは、史料から事実の推論へ、そして解釈へという認識形成の筋道を、「話し合い・討論」という場を設定することによってたどってゆく学習過程であったことである。これはすなわち、歴史研究者と基本的に同様の過程をたどり、歴史に関する「知の生産者」になることを通して「歴史認識の主体性を回復」することをはかる考えといえる。<sup>4)</sup>

一方この時期には、「話し合い・討論」を様式化・ゲーム化し、「ディベート」として授業に取り入れようとする動きがあり、歴史授業にもその波が及んでいる。小学校段階における実践研究事例として、例えば松元(1999)は「歴史認識を深める」という観点から歴史ディベートによる授業構成のあり方を論じ、「明治政府は富国強兵を推進すべきか否か」を論題とした授業を試みている。<sup>5)</sup> この例に見られるように、「ディベート」の形態で行われる歴史授業の多くの場合、その論題は判断や評価に関わるものであり、これには子どもたちが生活する現在のものの考え方や判断基準がより強く関与することになる。この点において、「ディベート」として様式化された「話し合い・討論」は、あくまで史料からの事実推論を基礎に置く上述の加藤らの路線とは大きく異なるものになっている。

さらにまた一方、社会科教育研究の動きとして、アメリカの小学校で試みられている構築主義歴史学習を参考にした研究がある。田口(2008)はアメリカで行われた独立戦争前後を対象とした授業を取り上げ、そこで行われる議論に対し、フレンチインディアン戦争後の課税をめぐる「根拠と主張を造り出す議論」と、フレンチインディアン戦争に賛成か反対かに関する「判断を造り出す議論」を析出している。<sup>6)</sup> ここで注目されるのは、前者に見られる「課税に対する公平」という観点、後者に見られる「戦時における権利と義務」という観点のように、現代社会における諸問題を構成する観点が議論の根拠となっている点である。ここでの「議論」を「話し合い・討論」に相当するものとする、歴史授業における「話し合い・討論」を現在の視点から構築主義的に展開するには、当然ながら現代社会を構成する何らかの観点を必要とする。

以上のような、1990年代から2000年代における歴史授業の「話し合い・討論」にかかわる動きを念頭にお

くと、「話し合い・討論」を中心にした歴史授業において議論の焦点は「史料」「生活的判断基準」「現代社会構成の観点」の三者間の関連にあることがわかる。ただし小学校段階を念頭におくと、「史料」に関しては、過去の遺物・エビデンスとしての「史料」と後世の者が再構成した「資料」が、学ぶ側にも指導する側にも未分化なまま取り扱われることが多く、また「生活的判断基準」と「現代社会構成の観点」に関しては、生活実感から来る主観的な前者とより広範な社会構成員に意識される後者が、やはり未分化な状況にある。このため、小学校歴史学習における「話し合い・討論」においては、「史・資料」と「生活経験」として大括りに二極化した上で授業を実施し、「話し合い・討論」の途上もしくは事後に二極それぞれが分化してゆく過程を追跡することも可能であろう。また実施にあたってはその方がより現実的といえよう。

したがって以下で実施する授業は、次の2点を意識して構成することとし、その結果から小学校歴史授業の有意義な方向性を探る。まず一つは、「未分化」から「分化」への進展プロセスである。上述のように小学校歴史授業における「話し合い・討論」は、意見表出の根拠面において多くの曖昧性を含む混沌とした未分化状態の中で行われるが、これが議論の進展とともにいかに分化した明晰さを獲得してゆくかが一つの課題といえる。もう一つは、「判断」から「結果」への評価プロセスである。歴史授業に限らないが小学校の学びにおいては生活経験知に依拠する割合がきわめて大きく、そこから判断基準が形成されるため、歴史学習の「話し合い・討論」では、場面設定・行為判断・行為結果という一連の連関を話し合いの対象にし、そこに「史・資料」をかみ合わせることによって、いかに「史・資料」と「生活経験」との関連をはかれるかがもう一つの課題といえる。

## 2. 「話し合い・討論」を中心にした歴史授業の実施

### 2-1 単元構成

取り上げる題材は、小学校歴史学習の題材として定番的などらえ方もされる「聖武天皇と奈良の大仏」である。この題材に対し「話し合い・討論」を中心とした学習を行うため、以下の4時限で小単元を構成する。

#### 聖武天皇と奈良の大仏 小単元計画（全4時間）

第1時 大仏造りについて調べ、たくさんの物資が全国から集められ、たくさんの人が動員されたことを理解することができる。

- (1) 大仏について知っていることを発表する。
- (2) 大仏の造り方を調べる。
- (3) 全国から物資が集められた様子を教科書の資料から調べる。
- (4) 今日の学習をして、大仏についての新たな疑問を書く。

第2時 行基という人物や当時の農民の生活について調べ、大仏造りに協力した農民の状況を理解することができる。

- (1) 行基の功績を調べ、当時の仏教について考える。
- (2) 奈良時代の農民のくらしや平城京の様子を思い出す。
- (3) 大仏造りに賛成か、反対か当時の農民になって考える。
- (4) 話し合いを振りかえる。

第3時 奈良時代の社会状況を知り、聖武天皇が国分寺や大仏を建立した理由を考える活動を通して、天皇の目的を理解することができる。

- (1) 聖武天皇が生きた奈良時代の社会は、どんな世の中だったかを調べる。
- (2) 聖武天皇が全国に国分寺を建てたことを調べる。
- (3) 聖武天皇が大仏をつくった理由を考える。
- (4) 再度大仏造りに賛成か、反対か当時の農民になって考える。

第4時 「聖武天皇が大仏をつくったのは成功か、失敗か？」を討論し、奈良時代の特徴を考えることができる。

- (1) 「聖武天皇が大仏をつくったのは成功か、失敗か？」を考え、話し合う。
- (2) 聖武天皇や大仏の学習を通して分かった奈良時代を考える。

この単元で「話し合い・討論」の場面は、第2時(3)、第3時(4)、第4時(1)、の計3箇所を設定している。話し合うテーマは、第2時(3)と第3時(4)については、行為判断に関するテーマ「大仏造りに賛成か、反対か」を「当時の農民になって考える」というものである。第4時(1)については、評価に関するテーマ「聖武天皇が大仏をつくったのは成功か、失敗か」というものである。

「大仏造りに賛成か、反対か」などというテーマは、およそ実証的歴史探究とはほど遠く、「賛成・反対」などという現代的感覚で古代史の事象を論ずる点に、観点の未分化な混沌たる曖昧さを含んでいる。しかしこの曖昧さにこそ、生活経験的判断から出発する小学校歴史学習の固有性があり、この未分化な議論が後にどのように分化・進展してゆくかが一つの重要な着目点である。そのため、このテーマに対しては第1時で大仏造りの基本情報、第2時前半で行基関係の基本情報を得た上で最初の討論を行い、次に第3時で聖武天皇関係の情報を得て再度の討論を行うという二段階を設定している。

「聖武天皇が大仏をつくったのは成功か、失敗か」というテーマは事象の評価に関わるもので、単独のテーマとしても議論可能であるが、ここでは第3時以前の行為判断のテーマを受けて「結果」を評価するものとして設定している。

## 2-2 「話し合い・討論」場面の発言

以下では、上記の単元構成のうち、話し合いの場面である第2時(3)、第3時(4)、第4時(1)の3場面における発言プロトコルを示す。実施年月は2015年6月、授業者(T)は椛山で勤務校において実施、児童(C)の数は21名である。なお椛山は第6学年2クラスとも社会科を担当しており、以下の授業場面はいずれも「1組」での授業のあと「2組」で実施したときのものである。

### 第2時(3)における話し合い<sup>7)</sup>

T1: けっこうねえ、1組は半々くらいだったんですが、2組は反対派が少ないですね。はい、反対派からちょっと聞いていきましょう。反対派の人教えて下さい。はい、N君。

C1: はい。ぼくは反対です。ぼくは資料集の32ページと33ページのところを見て、ぼくは、苦しい思いをしたり、死んだりしてまで、なぜ、作らなきゃいけないんだあ、と思ったからです。

T2: あら、反応がない。

C2: わかりました。

T3: 苦しい、死ぬような思いをするからねえ。えー、病気になるような人もいるからねえ。だから反対だ。他の人、反対派、反対派。はい、S君。

C3: えーと、わざわざ生まれてきたのに、お母さんが苦しい思いをして生まれてきたのに、命を落として倒れたり、別に反対でも賛成でもあるし、どっちでもいいんですけど、半々なんですけど行基さんは31ページにため池を作ってくれたと。

T4: ため池を作ってくれたねえ。

C4: 反対の理由は命を落とすかも。行くまでに。

T5: あ、これ行くまでにか。行ってからじゃなくて。

C5: 命を落とすかもしれないし、もし着いたとしても行って暑中、働いて熱中症になって死ぬのもいややし、ぼくは長生きがしたいから、もうC6: 生きたいっっちゃうことやろ。

C7: は?

C8: 死にたくないってことやろ。

C9: だから、

T6: どっかっていうと反対なんやろ。

C10: だから、家におる。

T7: 家にいたいわけやね。わざわざ都に行きたくないわけや。

C11: でも、家族が行くって言うなら行く。

T8: んー。他の人はどうですか? はい、O君。

C12: はい。農民は、暮らしたくても精一杯だったじゃないですか。それに? だから、苦しい思いをするから。

T9: 農民の暮らしはただでさえ苦しいのにこれ以上何させるんじやないか

C13: つけ加えがあります。

T10: はい。つけ加えどうぞ。

C14: 農民の暮らしは苦しいから、もし行っても、家族だから精一杯やっていると、誰か1人でも抜けてしまったら、農民はお米とか作れないから、働く人が、人手がいなくなるから

T11: あ、ちょっと待ってよ。今するどいことを言ったよ。大黒柱って言うか、分かるかな、働き手が奈良まで行ってしまうと、その残された家族が困るっちゃうことか。おー。なるほどねえ。そういうこともあるかもしれんねえ。

T12: 3人さん(反対派の残りの児童)、何かありますか?(児童の声) N君と一緒に?(児童の声) N君と一緒に? S君と一緒に。

C15: 行基の言ったこと忘れた。

T13: 行基さん、行基さん。リクエストが来ましたよ。行基さん、リクエストが来たからもういっぺん登場。どうぞ。

C16: 聖武天皇の言われるとおり、あなた達の協力で大仏を作りたいのじゃ。ぜひ、協力してほしい。

T14: はい。ありがとう。リクエストに応じて行基さんがもう一度登場しました。はい。じゃあ、賛成派さん、賛成派さん、教えて下さい。はい、みんなあてた人たちかなあ? はい。じゃあ、Wさんから行こう。

C17: 行基さんなら信用できるし、協力してもいいなって思って、そして、ちゃんとした私自身の理由が、教科書の34ページの左下に行基が都の周辺で行った土木工事というのがあって、その土木工事で農民の夢が叶ったからです。

C18: 反対意見があります。

T15: まあまあ、ちょっとね。一通り聞こうや。

T16: 行基さんなら信用できるんだ、付け加えないですか?

T17: つけ加えの人、はいじゃあ、Kさん。

C19: つけ加えじゃないです。

T18: つけくわえじゃない。違う意見ですか。はい、じゃあつけ加えじゃなくてもいいよ。Kさん。どうぞ。

C20: いまでも、お金をもらって生活してて、……(聴取不能)

T19: ああ、お金がもらえるんならええよ。

C21: 質問があります。

T20: お金? お金はさつきもいったようにその日のものを食べるくらい程度の物はもらえていたようです。お金が現物かはよくわからんよ。うん。食べるものくらいはもらえていたようですよ。はい、じゃあ、O君。

C22: えっと、まず、Wさんも行基さんなら信用できるって言ってましたし、Kさんもその日のご飯を食べられるくらいはお金ももらえるって言ってたし、都に行けば水とかご飯とかも農民とかが作る物よりは体にいい物とかがあるかもしれないから、都に行くとご飯を食べたりすれば、体もちょっとは強くなって、で、歩くか何か知らないけど、外で働いたりしてるから足腰が強くなって、帰ったら働けるんじゃないかと思えます。

C23: 反対意見があります。

T21: ちょっと待ってね。都に行けばいい物がある。いい物食べられるんじゃないの。今でも東京にはいい物が集まるとか言う話がありますよね。都にはいい物があるんじゃないの。足腰も強くなるんじゃないの。Sくん、分かったからね。あと聞くからね。待っててね。SA君。

C24: もし行基さんが、例えばの話、自分が信頼している友だちとか親友だったりしたとして、その人から言われたとします。信頼できる人だから裏切りたくないじゃないですか。だからぼくは賛成になりました。

T22: 行基さんいい人から裏切りたくないんじや。人柄に惚れちよるわ

けやね。裏切りたくない。はい。Fさん。  
C25：行基さんが池とか作ってくれた、そういうことへの恩返し。  
T23：恩返しね。あなた、いいことしてくれたから。  
C26：いいと思います。  
C27：つけ加えがあります。  
T24：はい。つけ加え。つけ加えのI君。  
C28：はい。ぼくは賛成です。参考にした資料は、資料集の30ページ、いや31ページの行基とその時代のまんが絵巻と言うところで、一番最初にこの人々を救うことはできないだろうか。と言って人々と協力してため池を作ったり橋をつくったりしよう。で、ため池を作ったりして、その農民が言われて、行基さんが言うならいいでしょう。命の恩人だから、みたいな。恩返しみたいな感じです。  
T25：なるほど、まんががそんな感じになっていると言うことですね。  
C29：ぼくは、大仏作りに賛成です。その理由は、行基とその時代のまんがの3こま目に、聖武天皇が人々のために…私は大仏を作り、仏教の力で国を守ってもらいたいと考えているので、作った方が…仏教の力を広める  
T26：そうか、そうか。仏教、大きな仏像を作れば仏教が広まってよくなると、そういう意味ね。  
C30：先生。聖武天皇の気持ちを言ってるだけじゃないですか？  
T27：んー。それに賛同した農民と言うことやね。それに賛成の農民と言うことやね。仏教が広がることでいい世の中になるのではないか。  
C31：わかりました。  
T28：その考え方に賛同という。はい。ここで一旦賛成派終わるよ。A君。  
C32：はい。参考にしたのは…。賛成だと思ったんだけど。参考にした資料が30ページの  
C33：どっちのですか？  
C34：資料集の30ページの左下の、31ページの⑥番のところをみただけど、735年頃、天然痘、大地震水害が続いて起こると書いてあるんだけど、そのあと6番のまんがのところで上に伝染病の流行・災害が732年のことで当時の人々は平和を望んでたんだけど、4こま目の絵を見たら不安がなくなってきたから、不安がなくなるということで賛成だと思いました。  
T29：不安がなくなる。大仏を作ったら不安がなくなるだろうと。  
C35：先生反対意見があります。  
T30：はい。では、お互いの意見に反対の意見を聞きましょう。S君。  
C36：えっとほとんどの賛成に反対なんだけど、夢が叶うっていうんですけど、何の夢が叶うのかわからんし、何で夢が叶うのかわからんしお金がもらえるからとか言うんだけど、それは自分だけのお金だから、行っていない人たちはずっと農民の人たちだから、ずっと作っていて暮らしが豊かではないから、困っていると思います。  
C37：その夢ってさ…伝染病や災害がなくなるって言うことを言うの？（座ったまま）  
C38：それに、裏切りたくないじゃなくて、裏切りたくはないけど、裏切りたくないじゃないけど、家族のほうが大事だし、農民だから、米を作る

のが商売だし、だから、恩返しは…  
T31：あれじゃね。お金がもらえるって行っても行った人しかもらえない。全国の農民はもらえないってことじゃね。  
T32：意見がある？はい、渡辺さん。  
C39：夢が叶うって言うのが、例えばの話なんですけど、もし、池って言うか、お米を作るときに水が少なくなってきた、池があつたら水をいっぱい仕入れることができるし、家がない人とか、泊まるどころかあつたら家がない人とかが楽にできるから、だからそういう感じで…  
T33：行基さんがまずかなえてくれたんだって言うこと？  
C40：はい。  
T34：はい。じゃあ、N君に先に聞こうか。  
C41：足が強くなるってあるんだけど、青森から奈良まで行くんだけど、足が強くなる前に…足が…  
T35：こわれちゃう？  
C42：おかしくなる。  
T36：つよくなるどころじゃないよ。おかしくなるよ。  
C43：食べ物も渡さないといけなから、自分たちの分も備えなきゃいけないから、食べちゃって  
T37：そんないいことはないだろうと、  
C44：もう一つは、F君が行基の、…それでも理由がない。  
T38：理由がない？  
C45：理由を教えてください。  
C46：（座ったまま）あー、なぜ大仏を作らなきゃいけないかっていうこと？  
C47：理由を言わないから、また更に、ちょっと…と思います。  
T39：I君。  
C48：ぼくは、農民の暮らしは苦しい、のやつに反対で、農民の暮らしが苦しいんだったら、奈良の都に行ってから、大仏を作ればいい。  
T40：苦しいんだったら、逆に大仏を手伝いにくればいいじゃないか。  
C49：わけは、さっき誰かが言ったけど、O君のところで都にはいい物があるかもってところで、農民の暮らしは自給自足で苦しいんかもしれないけど、都に行ったら出してくれるし、多分  
T41：これね、大仏作りに来たらね。  
C50：大仏作りに行ったら食べ物がもらえるけど、作らんかったらもらえないよ  
C51：そう。それやけ農民のくらしは苦しいんよ。作ればいい。  
T42：作ればいいじゃないか。ちょっと時間が来てしまった。  
C52：やりたいです。  
T43：ごめんね。時間が来てしまうたけ。あのねえ、これ結構するどいことを行ってね。なぜ大仏を作るかっていうのがあやふやだから意見が言いにくいところがあつたと思います。そのところを次の時間にやります。なぜ大仏を作るのかって言うところを聖武天皇の気持ちになってやってみます。

### 第3時（4）における話し合い<sup>8)</sup>

T1：ちょっと聞きたいんですけど、前の時と変わった人立って下さい。意見がよ。賛成反対の意見。その人たちに先に聞きたいんです。えーと、はい。Kさんから聞いてみようかな。Kさん、こっちやね。つまり前は賛成からなんで反対になったんか教えてください。  
C1：だって病気になるってまでも作りたくない。  
T2：今日病気のことができたからね。病気になるってまでも作りたくないよう。  
C2：同じです。  
C3：いいと思います。  
T3：（質問に対して）まあまあ、Iくんどうですか？I君。I君は賛成から反対だなあ。  
C4：ぼくは賛成から反対になりました。なぜなら、さっき先生は、天然痘、天然痘か。天然痘という病気で、大流行したって言って、それで、その大流行したときに、聖武天皇が大仏を作りたいって言ったから、病気のことで、それどころじゃないようって思ったと思いました。  
T4：あつ、農民は、てこと？それどころじゃないよ、と。  
C5：言わせてもらいます。  
T5：KAさんもこっちじゃね。賛成から反対やね。はい。  
C6：ご飯がもらえるくらいのお金がもらえるって言ったから、食べ物をもらえて病気になるって、早く死ぬより、もらえなくてまだ生かされるほうがいい。  
C7：付け加えがあります。  
T6：ちょっと待って。行ってね。行って食べ物ももらっても、あれか。病気になるたら、あああ病気が多いけね。ああなるほど、なるほど。  
C8：ぼくは教科書。賛成になりました。参考にした資料は教科書33ページです。理由は、天然痘で苦しんでいる人を見て、国分寺や大仏を立て、仏教の力で社会の不安をおさえ国を治めようとする気持ちだから、国の人

たちを守ろうという気持ちが入っているから、賛成です。  
T7：天皇に賛成したんか。国を守ろうとする天皇に賛成なんじゃ。同じですか？  
C9：でも、ちょっと疑問があります。  
T8：はい。どうぞ。  
C10：はい。でも、それを言ったのは、あのおじいさん。  
T9：行基？  
C11：行基だから、天皇は、考えは分かかってないと思うから、  
C12：質問があります。  
T10：天皇はそこまで考えてないと言うこと？  
C13：前やったときは、行基さんが言って、それならいいでしょうって。  
T11：言ったんよ。はいはい。  
C14：それだから。天皇じゃなくて、その農民か、農民は行基さんに賛成したと思います。  
C15：反対意見があります。  
C16：KAさんに付け加えがあります。  
T12：ちょっと待てよ。…  
C17：先にこのことについて言っていていいですか？  
T13：このこと、I君に言いたいね。どうぞ。  
C18：天皇が命令してないと、勝手に寺とか作っちゃいけないし、まだこの時代は。天皇に命令されたから。天皇は仏教が広めたかったんだから、行基に命令したんだから、天皇が始めたことだから、それはおかしいと思います。  
C19：いや、おかしくないよ。  
T14：はは。昨日、前行基さんが読んでくれた文章。私が読みましょうか。  
C20：わー。  
T15：聖武天皇…、あ、読みたかった？ごめんなさいね。

T16: 聖武天皇の言われるとおり、あなたたちの協力で大仏を作りたいのじゃ。ということで、言い出しっぺは…  
C21: 聖武天皇。  
T17: 聖武天皇。この人ね。  
C22: 先生。S君に反対があります。  
C23: (がやがや)  
T18: まあ、すつきりさせちゃげよう。  
C24: 資料集の31ページを見て下さい。  
C25: はい。  
C26: 聖武天皇は人々のために尽くす行基のうわさをききました。それでその次のコマに、あなたたちの協力で大仏を作りたいのだが。S君の言う農民が行基様、がんばりましょうっていったから、違うと思います。  
C27: ちょっと、それとぼしちよるよ。私は大仏作りを、仏教の力で国を守りたいと考えている。  
C28: そう、そう行って行基が言ったんじゃ。  
C29: 先にさあ、聖武天皇がいつちよるじゃろ。  
C30: そうよ、聖武天皇が行基に言って、その行基が農民に言ったんよ。  
C31: じゃけえ、聖武天皇が言ったんじゃ。  
C32: じゃけえ、言った人が行基じゃけえ、  
C33: そういうことか。  
C34: そう。見てこのせりふ。「行基様、がんばりましょう。」よ。  
C35: 行基さんが言ったけえ、行基さん、がんばりましょうよ。  
C36: そうよ。  
C37: (以下、言い合い。)  
T19: 天皇はね、詔というのを出したんです。大仏を作るぞっていう。それは文章で出したんです。ね。教科書にも載っていると思います。大仏を作る詔というのがね。それで出して、実際に農民に話したのは行基さんたちかもしれないですね。天皇が直接農民に言ったという感じはないかもし

れないけど、文章によって、農民にも、行基さんたちが天皇はこう考えておられるんだよって言うことは伝えたんじゃろね。  
C38: それで、行基さん、がんばりましょうよ。  
T20: まあまあ、言いたいことは分かるんじゃけど、天皇が言ったことも行基は伝えているだろうなと思われます。  
T21: ちょっとね、そこは置いといて。N君、どうぞ。  
C39: KAさんにつけ加えて、食べ物をもらって、農民たちは畑で野菜とかも作って食べれるし、だから、あの、やっぱ、賛成行きます。  
T22: 賛成なの？  
C40: やっぱ、賛成だって。  
T23: A君、言いたい？どうぞ、A君。  
C41: 賛成だと思います。わけは、参考にした資料は教科書33ページの下に仏教の力で社会の不安を治めようと思う。聖武天皇が言っていたから農民から言えば、天然痘の流行も避けられるというかそう願っている。  
T24: なるほど。天皇は病気の流行がなくなることも願っているからって言うこと。農民も助かるって言うことね。  
T25: 待ってね。O君が挙げちゃったからね。  
C42: なんで、寺を建てたからって言って病気がなくなるか？  
T26: なぜ、寺を建てたから病気がなくなるのか。  
C43: そうじゃなくて、はい。  
T27: どうぞ。  
C44: なくなるんじゃなくて、なくなることを願っているから  
C45: なくなることを願ってだから、…  
C46: なくなるはおかしいんじゃない？  
C47: (座ったまま言い合う)  
C48: まあ、仏教を信じちよる人にとっては、そうやって拝めばよくなるだろうって言うことを思っちよるじゃろね。だから、現実はどうなんかはまた考えんにゃあいいんことじゃろね。

#### 第4時(1)における話し合い<sup>9)</sup>

T1: ちょっと失敗派の方が少なく、成功派の方が多いんですが、途中で全然意見を変えてもかまわないですからね。では、失敗派の方から聞いてみようかな。Aさんから聞きましょう。どうぞ。  
C1: はい。前、ノートに貼ったプリントで、  
T2: はい。見ましょう。ノートに貼ったプリントで、  
C2: 資料2のところで、大仏ができたあとに…流行は減っているんだけど、大流行の方はあんまり変わってないから失敗と思いました。  
T3: はあ。はあはあはあ、どうですか。  
C3: いいです。  
T4: 分かった？大流行が減ってない。変わってないにしようか。変わってないから失敗なんじゃ。ほか、Bさん、どう？  
C4: はい。えっと、Aさんと似ていて、特に何も変わってないから。  
T5: 特に何も変わってない。  
C5: 先生。反対意見があります。  
T6: ちょっと待ってね。あと聞くからね。C君、どう？  
C6: …Bさんと一緒かな。  
T7: 一緒かな。はいわかりました。ちょっと少ないですが。じゃこっち側の、  
C7: まだ1理由があります。最初成功って言うだけ失敗の方の  
T8: 失敗に変えるの？理由は何かあるんですか、D君。理由があればどうぞ。  
C8: 理由は、その時書いてなくて、普通に考えたら成功だと思ったけど、なんか資料集とか見たら、31ページに行基とその時代、伝染病の流行、飢饉や災害、貴族同士の争いで多くの人々の不安があると書いてあるから、大仏作るのを作ったとしても、それで何か変わるかという不安が生まれてきたから、大仏を作ったのは成功だけど、その不安を抱えている人もいるし、だから、失敗でもないけど成功でもないと思います。  
T9: 不安を抱えている状況が変わらないって言うことか。不安がぬぐい切れていない、てこと。大仏を作ったことが成功か失敗かだから。  
C9: 先生、Fさんで、これって、流行・大流行って天然痘の大流行か流行だから、流行じゃないんですか。それじゃないんですか。白が流行、大流行。  
T10: 白が流行だから少しはやったわけね。大流行はだいぶはやったって言うことやね。  
C10: ああ、だから失敗。  
C11: そういうことね。  
T11: じゃあ、それと同じような感じでいいの。じゃあこのへんでいいかな。  
T12: では、成功派さん、なぜ、あなたは成功だと思んですか？なぜ成功なんですか。はい。F君から聞きましょう。どうぞ。  
C12: はい。なぜぼくが成功だと思うわけは、昔は大流行とか流行したかもしれないけど、あ、したんか、したんだけど、今になってみると何もの

ないじゃないですか。天然痘とか。  
T13: あ、現代？今ね。  
C13: だから、成功だと思います。天然痘が治ったから。  
T14: 今、天然痘がないことが成功の証ですか。  
C14: (それは、医者とかが出てきてから治したんじゃ)  
T15: 今、天然痘がないから成功だよ。F君はそういうこと。他にありませんか。はい、G君。  
C15: はい。えっと。ぼくは、行基も多分一緒に作って、そして弟子たちと一緒に人々に呼びかけていて、それで人が多く来たから、役割分担って言うか、そんなもんをして…  
T16: 人々がたくさん集まって、なんか役割を果たしたことが成功だと思うの？てこと？違うん？  
C16: まあ、…そんなことです。  
T17: そんなこと。じゃけえ、行基や人々が役割を果たしたということをもって成功じゃと思うということね。違う？なんか違う？  
C17: ああ、それでいいです。  
C18: 先生、反対意見があります。  
T18: ちょっと待って。役割を果たしたと。さすがG君は行基の気持ちがよく分かる。行基や人々が役割を果たしたから成功だろう。成功の方、他にも教えて下さい。  
C19: (え、そういうの？)  
T19: ええよ、ええよ。なんでもいいですよ。はい。  
C20: ぼくは成功だと思います。そのわけは、今では世界遺産になり、世界から観光客も来てて、聖武天皇の、天然痘は大流行したけど、治そうという気持ちがあった。  
T20: 天皇が治そうと思って大仏作ったから、  
C21: それで今はそのとおりになっているから成功。  
T21: 成功。病気をなおそうと願っていたことで、んー、ここまだ他の人いっぱいいるんですけど、他の人どうでしょうか？  
C22: 先生、変わる。  
T22: 変わる。なぜ、変わったんかなあ。  
C23: Aさんと同じだから。  
T23: Aさんと、このあたりがじっくりきたんや。  
C24: うん。  
C25: 反対意見があります。  
T24: はい。反対意見聞いてみよう。  
C26: 今、天然痘がないと言ったんですけど、天然痘はいろいろな伝染病だから、伝染病でとてもその時代では、すごい…だけど、治ったけどそれはただの病気の一種で、他にも、今でもいろいろなそれよりもっとすごい病気がいっぱいあるし、いっぱいあるから、その理由は分かるけど、他にもいっぱい病気はあるから、  
T25: 天然痘は確かになくなったかもしれないけど、今でも他にいろいろな

病気はあるよっていうことやね。

C27: で、仏教って愛されているんですか？

T26: どうでしょうか。

C28: (他にも病気があるけえなんなん。) (がやがや)

C29: それは、天然痘がなくなったから成功って言うわけではないし、

T27: 病と言え、天然痘だけじゃないんじゃないかって言うのがD君の意見ね。他にも病気はあるんじゃないかって。

C30: D君に反対意見があります。

T28: ちょっと先にJ君行きましょう。J君。

C31: さっき、S君は他にも病気はあるって言ってましたけど、それは大仏を作ったせいで、今のインフルエンザとかエボラ出血熱とか、全てが大仏のせいで起こっているわけではないので、ぼくは成功だと思います。

T29: (拍手) これは関係ないんじゃないかっていうことね。J君的にはね。そこは、あれかもしれないねえ。考え方にもよるところかもしれないですけどね。

はい。F君どうぞ。

C32: はい。D君に反対で、他にも病気があるんじゃないかっていったんだけど、ぼくは聖武天皇が一番信頼していたあの3人が天然痘でなくなったというのを先生から聞いたので、そのショックで聖武天皇は天然痘を無くしたいと思って、大仏を作ったと思うから、そうだと思います。

T30: 天然痘がやっぱりメインじゃないかって言うこと。(やろ)

C33: (仏教を広めたいけえ、作ったんじゃないん?)

T31: んー?

C34: (それもあつて)

T32: さあ、その辺から何か言える人いますか？そのへんから何か言える人。

C35: (がやがや)

T33: この辺の人何か言えないですか？

T34: 他なにか仏教のこと何も出てないんですけど、書いた人いないですか。仏教のこと。今さっき出てきたじゃん。仏教のことじゃないのって。仏教のことで書いた人いないですかー?

T35: Kさん何か言えそうじゃねえ。

C36: はい。教科書の34ページに、聖武天皇の詔が、世界を仏教の光で照らすことを願ひ、というように書いてあるから、成功したから、今に仏教が伝わっているんじゃないかと思ひます。

T36: ははあ。今仏教が伝わっていることが、成功の証じゃないだろうかと。んー。どうですか、そのへんは。誰かつけ加えとか反対とかありますか？

C37: (それもいいんだけど、ぼく反対になったから)

T37: それもいいんだけど、ぼく反対になったからか。…はい。D君。

C38: ぼくは賛成じゃないけど、さっきも言ったように半分で、仏教が伝わる、で伝わったのは、行基や聖武天皇が大仏を作り、世界中に仏教を広めようとしたから、その気持ちは今までも伝えられているから広がって、病気の大流行は、ほぼ変わってないから、でも治そうとしたことは分かります。

T38: 治そうとしたことは分かるんじや。

T39: あのさ、病気の流行の話なんですけど、君たちなかなか出なかつたんだけどさ。これ、この表ですよ。あの、1組さんで出たときはこれ、減ってるじゃんって言う人もいたんだけど、その辺はどうですか？

C39: (ぼくそう思ひます。)(おれも思ひたよ)(がやがや)

T40: おお、思ひたら言おうぜ。はい。H君どうぞ？

C40: 大流行は減ってはないけど、流行が減ってるから。

T41: 流行が減ってる。この辺はどう思ひますか？Bさん何かある？流行は減ったから、減ったんじゃないかって言ってますけど。

C41: (がやがや)

T42: あの、まだ言っていない人、何かつけ加えとかないですか？

C42: (はい。先生、水銀で…)

C43: 水銀って、前やったイタイイタイ病とか水俣病でであった病気？

T43: そうそう。水俣病やね。水銀は。

C44: 水俣病で、水銀は体に悪いから、それで今でも死ぬ人が、減多にないけど、死ぬ人だっているし、

T44: 死ぬ人がいたことが失敗ってこと？確かに大仏作るとき、気持ちが悪くなって抱えられているひとおったよ。

C45: (ここです。教科書の35ページ。右下です。)

C46: (がやがや)

C47: (天然痘を治すために大仏を作っても、大仏を作ったからと言って天然痘が治るわけじゃない。)

C48: (がやがや)

C49: (仏教を広めるために作ったんじゃないですか？)

T45: んー。そのへん。前のページでいっぺん考えたやん。聖武天皇は、何を理由に、あの、大仏を作ったんじゃないかって。そうそう。ちょっと言い方は違ふかもしれないけど、だいたいこんな意見がでたような気がするんだよ。仏教で国をしずめたい。災害とか反乱とか病気とか。しずめたいとか、仏教を広めたいとか、ちょっと天皇の言うことを聞かせたいとか、そういった意見がでたと思うんだけど。このへん、やっぱり聖武天皇

はこのへんをねらってたので、このへんが大事になって思うんだけど。君たちが言ってたとおり。聖武天皇はここねらってたので、そうすると、成功ですか、失敗ですか？

C50: (成功)

T45: じゃ、理由を教えてください。はい。はい。はい。もう当たればっかりだけど、もういいや。G君。

C51: 仏教の、仏教で、仏教の力で国を守って、資料集の31ページの⑥のまんが絵巻のところに、聖武天皇が言ってるけえ、仏教の力で国を作る

T46: ことができたということやね。仏教の力で国を治めると言うことができたんだ。だから成功だと。そういうことだね。

T47: はい。他の人。Lさん。

C52: 私も、その、聖武天皇が言った、仏教の力で国を守りたいと思ひているところは、思ひたのはF君と一緒になんですけど、それで、仏教の力で国を守りたいって、聖武天皇が言って大仏を作ったから、作って、それで病気のほうがだんだん減ったから成功した方だと思います。

T48: これが減ったことが大事。だから成功だと。病気が少し減っているから成功だと。はい。Mさん、どうですか？

C53: はい。仏教を広めたいと書いてあるけど、大仏を作って仏教が伝わっているから、その大仏を作って仏教を広めたいというのは、

T49: こっちもいけたんじゃないかということ？これもこれもないのって言うことだね。

T50: どうですか。D君。

C54: その仏教を広めたいなんですけど、仏教はもともと少しは広まっいて、その天皇とか、豪族とかしか、あ貴族、貴族ぐらいしか知らなくて、農民とかは知らなかつたから、それで仏教を広めたいという気持ちが、教科書31ページの、聖武天皇の詔と書いてあって、「このたび、人々とともに仏の世界に近づこうと思ひ、金銅の大仏を作ることを決心した。」と書いてあるから、仏教を広めたいという前に、今ではその大仏が世界遺産にもなり、

T51: だんだんあれか、こっち側(成功側)に寄ってきたか？

C55: あ、世界遺産になり、日本全国ほとんどの人が仏教というようになって死んだ人のお墓のときも埋める

C54: (埋めるん?)

C55: 骨を埋めるときも、お墓があるじゃないですか。お墓って仏教宗の人が言うことだから、だから仏教派、いや成功

T52: やっぱりこっちなんだ(成功側)

C56: (拍手)

T53: Aさん、どうしますか。あの人向こうに行っちゃったよ。誰か無いですか。こっちの人。どうですか？どうかな。なんだなんだ、もう何もな

C57: (がやがや)

T54: あの、ちなみに天然痘が無くなったのは今から数十年前のことですよ。

C58: (えー)

T55: そうですよ。つい最近というか、1900…

C59: (平成にはまだあつたんですか?)

T56: 平成にはない。昭和のうちですよ。無くなったのは。(マジで?) いや、もっと前かな。そのくらいだったと思うんだけど。まあ、この(大仏造立)の直後になくなったわけではないですよ。医学の発達でだんだん減っていった。分かるかな。

C60: (がやがや)

T57: じゃあ、今の、ちゃんと言うてみい。

C61: 大仏の力も少しはあると思うけど、えーまた戻るん(失敗側)

T58: 違うんか。違うんか。

C62: (笑い)

T59: これ、本当になくなったのは最近じゃけえね。

C63: 天然痘が無くなったのは、医学が発達し、その死んだ人？天然痘で亡くなった人、もしくは天然痘で手術した人の細胞を取り細菌？菌をとってこれにはどういふ薬が効くとかいう実験をして、医学で治したんだと思ひます。

T60: んー。医学で治したから、大仏のおかげじゃ無んじゃないかって言うことね。

C64: いや…そういうわけじゃ、…

C65: (がやがや)

T61: これはいいや。病気は。反乱とかどうですか？反乱とかはどうなんですか？どうぞ。

C66: D君が、医学のおかげで言ってたけど、何度も災害で反乱が続けば、その研究するところとかもどんどんぶつ壊れて、研究とかする前に、研究とか進まなくて、医学も発達しないと思ひます。

T62: うん。いやそうなんですけど。反乱はどうなつたんですかこのあと？無くなるんですか？あるんですか？どうぞ。

C67: さっきも言つたんですけど、多分、資料集31ページの4コマまんがの上伝染病の流行、飢饉や災害、貴族同士の争ひが続いて起き、多くの人々が不安を抱えていました。豪族、貴族同士の争ひが続くと言うことは、反乱は、大仏作りの反乱という意味だから

T63：だから、そういう状況だから大仏を作ったんだけど、大仏を作ったあと、どうなったん？  
C68：あとは、反乱は、今のやくざみたいにちょっとした反乱はあるけど、  
T64：今でも反乱とかあるから、あるんじゃないかというこね。  
C69：（でも、多分、これで止めているんだと思います。）（手を大仏の形に）  
T65：指？  
C70：（がやがや）  
T66：じゃ、このへんはどうですか？天皇の言うことを聞かせたいよう。ここは？これも成功？失敗？  
C71：（成功）  
T67：どういう意味で成功なの？どういう意味で失敗なの？  
T68：力を強めたいというかね。強まったか。そうじゃなくなったか。そういうことですか。んー。どう？J君。  
C72：はい。ぼくは、天皇の言うことを聞かせたいも成功だと思います。そのわけは、だれでも、あんな巨大な物を作れば、こんなにこの人は権力

やお金を持っているのかと思ひ、誰でもひれ伏すと思う。  
T69：なるほど。あんな、この教室よりも高いような、でかい物をあの時代に作ったような人に逆らえないと。どうD君は？  
C73：天皇の言うことを聞かせたいもあるだろうけど、行基が大仏の中指を前に出したわけは、みんなが公平に暮らせるように、  
T70：ていう意味なん。これ？  
C74：しらん。  
T71：しらんのか。調べたんかとおもった。そうじゃないのね。  
C75：だいたいそうかなあと思って。  
T72：じゃあ、これも成功ですか。  
C76：（がやがや）  
T73：やっぱり成功派が優勢なんですけど、失敗派の人もないですか？例えばさあ。反乱とかって、先生のあげた資料の中に、分かるように資料3はそのために載せたんだけどなあ。真ん中の方に聖武ってあるでしょう。あれが聖武天皇の時なんですけど。聖武天皇の最後あたりで大仏ができています。

### 3. 「話し合い・討論」と歴史学習の展開

#### 3-1 話し合いの進展過程

上記に示した第2時（3）、第3時（4）、第4時（1）の3つの話し合い場面の過程を、前々章で述べた「史・資料」と「生活経験」との関連を念頭に追跡してみよう。

まず第2時（3）は「大仏造りに賛成か、反対か」に関する第1回目の話し合いになる。最初は「反対」意見が出され、その論拠は主に農民の生活実態を念頭に置いた場合の労役の過重負担を指摘する内容が述べられる（C1～14）。これに対し、行基の役をするロールプレイ（C16）の後は、一転して「賛成」意見が続く。その論拠は、これまでの行基と農民のつながりを指摘する内容と、都に行くことによる生活保障的な利点をあげる内容がある（C17～34）。この後、「賛成」意見に含まれる「農民の夢が叶う」（C17）への疑義（C36）や弁明（C39）、途中の行程を問う意見（C41～43）を経て、そもそもなぜ大仏をつくらないといけないのかという疑問（C44～47）と、農民の暮らしが本当に保障されるのかという疑問（C48～51）の2つが未解決で残る。総じてこの時間の発言は、頻繁に教科書のページに言及しているように資料活用的な面が多分に現れているものの、一貫して農民の暮らしを生活経験的に予測・推理しようとしている。

次に第3時（4）は「大仏造りに賛成か、反対か」に関する第2回目になるが、第1回目との間には、聖武天皇の国家的事業に関する内容の学習があり、それを受けて第2回目の話し合いが行われる。最初は、第1回目で「賛成」を表明していたが「反対」に変わった意見が出される。その論拠は「病気」であり、この話し合いの前に提示された天然痘の大流行の情報が大きく影響している（C1～6）。これに対し、大仏建立の目的に関する教科書情報から「賛成」に回った発言（C8）をきっかけに、大仏建立の主体が天皇か行基かをめぐって激しい言い合いが（～C37）、教師が介入（T19）するまで続く。そしてこの後は、「仏教の力で不安を治める」という考え方への「賛成」「懐疑・疑問」が議論の中心になってゆき、また言い合いになる（C41～48）。この時間の発言からは、農民の暮らしからみる前時の一貫性が崩れてきていることがわかる。

最後の話し合い場面である第4時（1）は「聖武天皇が大仏をつくったのは成功か、失敗か」が話し合われる。まずは「失敗」の意見が先行する。論拠は、天然痘の流行や社会不安が収拾されていないことである（C1～11）。これに対して「成功」とする意見が述べられるが、その論拠は教室にかなりの驚きをもたらしたようである。それは、成功・失敗を判断する時間的スパンを極度に長くしたり短くするものであった。まず長くした例は、現在において天然痘は克服されているから成功というもの（C12～13）で、直後に「それは、医者とかが出てきてから治したんじゃ」（C14）という疑義が出される。一方短くした例は、行基を中心に役割分担して大仏が完成したから成功というもの（C15～17）で、直後に、そんな理由でよいのか（C19）という疑義が出される。時間的スパンを自由に伸縮してよいことがわかると、これ以降、世界遺産になって多くの観光客が来ているから成功（C20）、あるいは天然痘は治ったが他にも病気がいっぱいあるから成功でない（C26）などの評価が出され、その一方「今の病気は大仏のせいではない」と飛躍を抑えようとする動き（C31）も現れる。教師の、仏教の広まりに着目させようとする介入を受けて、仏教の広まりの面では成功だが病気の面では変わっていないのかどうかをめぐって言い合いになる（C36～49）。話し合いとしてはここまでで要素的なものは出し尽くされ、以降は教師による収拾・まとめに入っている（T45

～)。この中では、仏教、病気、反乱、権力など項目ごとに「成功」の度合いを評価させる、という活動になっている。

### 3-2 話し合いによる歴史学習の特色

以上の話し合いの進展過程から、小学校歴史学習の「話し合い・討論」に現れる特色として、以下の2点がとりわけ注目される。

第1の特色は、「話し合い・討論」を進展させる推進力として、話し合い場面には常時「事実追究へ向かう力」と「解釈へ向かう力」という2つの力が働き、両者が時には対立的に、時には相補的に関わり合っていることである。発言プロトコルに何度も現れているように、子どもの意見は教科書の資料掲載ページに言及して最低限「実証的」な体裁をとろうとする一方、自分の経験的な事態からの類推で発言しようとする両面性をもっている。前者は事実追究に親和性が高く、後者は解釈に深く関連していることは容易に推察できるが、この2つの力の相克が「話し合い・討論」の進展に大きく関わっていることが、特に最初の2つの話し合い場面に現れている。

最初の場面・第2時(3)で「賛成」と「反対」は対立しているように見えるが、農民の暮らしに関わる事実を見ようとする点は共通であり、苦しくなるのか良くなるのかという予測で対立するのである。これに対し第3時(4)になると一気に国家的視点が現れ、その視点に付いていく者と農民のくらしを見る視点にとどまろうとする者との言い合いになる。大仏建立の主体が天皇か行基かという議論はその現れであり、「仏教の力で不安を治める」という考えに賛同する者と懐疑的な者との言い合いもその現れであろう。国家的視点から考えたり仏教の力で治めるという発想は一定程度の抽象的な解釈に向かう力に導かれる必要があるが、この力と、農民の暮らしの事実を追究する方向への力とのせめぎ合いが話し合いの場を支配することとなる。

第2の特色は、上記にも現れている「視点移動」である。この授業では歴史の出来事を見る視点において、2種類の移動が行われ、話し合いを推し進める展開になっている。

そのうち一つは、第3時(4)までの展開に現れた、国家や仏教など概念的・全体的な場に立って出来事を上から眺める視点と、農民の暮らしに密着して具体的・地平的な場に立って下から見る視点との「上下移動」である。第3時(4)までの子どもたちは他者の意見に接する中で、このような視点の上下移動を経験し、「賛成」と「反対」の間を動いてきたといえる。この上下移動は、言い換えれば天皇も仏教も行基も農民もすべて含む「全体」の動きをとらえようとする動きと、一点集中で具体的な「個」をとらえようとする動きとの、「全体」－「個」間の相互移動であるともいえる。

そしてもう一つは、第4時(1)に現れた、タイムスパンの伸縮による視点移動である。「成功か失敗か」という問いは、どの時点から判断するかによって見解が異なり、大仏建立直後からも判断できるし現代から判断することもできる。言うなれば視点の「前後移動」によって話し合いが進行しているといえる。歴史上の事象の評価はさまざまな時点から、またさまざまな立場から行われ得ることは、この授業の子どもたちにとっては「発見」であり、そのためこれをきっかけにさまざまな視野に拡散していったために、教師は収拾に追われる結果になっている。学習として完結させることをねらいとする授業であれば、この視点移動はそのような方向に向かわないため、話し合いの有効性に疑問が出されるかもしれないが、個々の子どもそれぞれが歴史に親しみ、自分の評価眼・解釈基準を持てる方向への指導をめざすには有効な視点移動といえる。

### おわりに ー教師の指導性と評価観点ー

以上考察してきたように、「話し合い・討論」をもとにした歴史学習は、特に小学校においては、過去に関する既存の知識の獲得ではなく、過去に対する混沌たる曖昧さから多視点的な過去への分化に向けて方向付けられていることが具体的に明らかになってきた。「話し合い・討論」は単に学習の一形態ではなく、学習の本質的モメントであって、事実と解釈の双方へ向かう力の交流、視点の上下移動や前後移動を促す交流は、「話し合い・討論」を経てこそもたらされる。

ならば、そこに求められる教師の指導性とはいかなるものであり、いかなる観点をもって学習者を評価し、授業を方向付けてゆくことが求められるのであろうか。

この授業から手がかりを探るとすれば、一つの要素は単元の構成にある。この単元の構成には、個々の子

どもの現段階を評価し、次の学習へ促す指導の方策がいくつも組み込まれている。例えば以下のような点があげられる。第一に、「賛成か反対か」「成功か失敗か」という二択ながら視点の混沌たる曖昧な問いの設定である。これらは話し合いの進行につれて多視点的に分化し、個々の子どもの立つ視点が明確化してくるよう設定されている。第二に、話し合うテーマを行動判断（賛成反対論）から評価（成功失敗論）へと設定した点である。「史・資料」による実証性と生活経験による蓋然性の双方を論拠にしやすいテーマ設定で、思考力判断力をみることができる。第三に、基本的に大仏建立をめぐる物語プロットに沿い、その要所で話し合いを構成する点である。このような構成は子どもたちが登場人物の「立場」に入りやすいため、立場性が明確に現れる。第四に、話し合いの前に適切な情報共有をはかる点である。第2時の前に第1時として大仏の基本情報を、第3時の話し合いの前に聖武天皇周辺の基本情報を共有させ、適切な情報活用を促している。これらはすべてそのまま評価観点になり得る指導的措置といえる。

しかしながら、本稿では示し得なかった教師の指導性の重要な要素がもう一つある。それは「個々の子ども」への指導対応である。先の発言プロトコルでは、子どもの発言をすべて「C+番号」で表記したが、実際にはそれぞれの思考傾向を有する子どもが発言している。そこには歴史に対するとらえ方の類型があり、それらの類型を有する子どもたちの歴史理解の蓄積があるはずである。「話し合い・討論」は一単元で完結するわけではなく、年間を通した子どもたちの歴史理解の磨き合いでもあり成長の軌跡でもある。子ども集団総体としてとらえた場合に本稿の考察は一定の有効性をもつと思われるが、個々の子どもの年間単位での歴史理解形成過程をとらえるには、発話者を含めた発言の分析が必要になり、そこから教師の指導性を明らかにしてゆくことが求められる。今回の授業に関してはその点のデータも一定程度の蓄積があり、この分析考察については他日を期したい。

## 注

- 1) 歴史教育者協議会編『子どもが主役になる“歴史の討論授業”の進め方』国土社、2002
- 2) 上書、p. 22
- 3) 上書、pp. 8-15
- 4) 加藤のこうした「主体性回復」に関わる構想は2000年の別著、加藤公明『日本史討論授業のすすめ方』日本書籍、2000、及び2006年の学会シンポジウム、加藤公明「民主社会の担い手を育てる歴史教育－「考える日本史授業」の実践を通じて」『社会科研究』第64号、2006、において、より詳細かつ明確に表明されている。
- 5) 松元伊知郎「子どもの歴史認識を深めるディベート学習の理論と授業」『社会系教科教育学研究』第11号、1999
- 6) 田口紘子「議論を基盤にした小学校歴史学習原理」『社会系教科教育学研究』第20号、2008
- 7) 本時で使用した教材資料は、子どもが常時使用している教科書（『新編新しい社会6年上』東京書籍）及び資料集（『社会科資料集6年』文溪堂）のみであった。
- 8) 本時での使用資料も上記7)に同じ
- 9) 本時での使用資料は、上記7)に加えて次の3点を提示している。
  - ・ <小野田地区のお寺が作られた年代> 梶山の聞き取り調査による自作資料
  - ・ <疫病流行・大流行の五年ごとの頻度> 薫科「奈良時代前後における疫病流行の研究－『続日本紀』に見る疫病関連記事を中心に」『東アジア文化交渉研究』第3号、2010、をもとに作成
  - ・ <奈良時代の詳しい年表> 鳥海靖・五味文彦編『もういちど読む山川日本史』山川出版社、2009、をもとに作成

## 付記

- ・ 本稿は、実施授業における単元計画、授業構成から実施、発言プロトコルまでをすべて梶山が担当し、その成果に基づいて吉川が文章化したものである。本稿全体の文責は吉川にある。
- ・ 本稿は、平成27年度科学研究費補助金（基盤研究（C））（研究代表者：吉川幸男 課題番号26381212）による研究成果の一部を構成している。